

2023_1004「秋の横沢入（写真）」日々の理科 3351号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

今日は東京都あきるの市立五日市小学校の理科の研究授業の助言で伺っていました。4年の空気・水の性質の授業で、「閉じ込めた水は、押し縮めることはできるか」という学習問題を解決する授業でした。私が驚いたのは、観察・実験の場面が全くなく、45分間話し合いだけの授業だったことです。理科の研究授業では初めて見た形態でした。もちろん、指導者は非常に熱心で、子どもたちも探究的に話し合いや発表をしていました。学級経営や関係性、掲示物やノート指導もすばらしいと思いました。何よりも、あきるの市の小中学校の理科の先生方が全員集まって、定期的に授業研究をする姿勢に感服しました。

研修会のあと、あきる野市の小学校の先生に、五日市に近い「横沢入」という地区を案内してもらいました。「横沢入」というのは、五日市線の線路の北側に広がる、丘陵に囲まれた小さな水田地帯で、典型的な里山の景観を形成しています。ちょうど稲が収穫期で、はさかけの準備もされていました。

あぜ道や遊歩道には、ヒガンバナ、ススキの花穂、クズ、ツリフネソウ、キンエノコロ、ヤマノイモのむかごなどが見られ、私は「素晴らしい!」「素晴らしい!」と何度も感嘆しながら、キョロキョロしながら歩いていました。短い時間でしたが、東京郊外の豊かな里山の秋を満喫できました。

(2023年10月上旬／東京都あきるの市横沢入)

